

令和4年度東北地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会
議事概要

1. 日 時 令和5年 3月15日(水) 14:00~15:30
2. 場 所 東北地方整備局 大会議室
3. 出席者 委員長 飛田 善雄 東北学院大学名誉教授
委 員 赤石 雅英 公認会計士・税理士
委 員 真田 昌行 弁護士
4. 議 事 ・令和4年度
東北地方整備局コンプライアンス報告書(案)について
・発注者綱紀保持規程の改正について
5. 各委員会からの意見・質問

【意見】

- ・各取組については適切に行われていると思う。
- ・上司は部下の身だしなみや生活習慣のちょっとした変化に気づいて、相談に乗ってあげることも不祥事を未然に防ぐためには必要ではないか。
- ・「はじめに」において、自然災害の復旧を通じて地域社会との信頼関係が築かれているという趣旨が述べられているが、生活基盤としてのインフラの整備と維持管理を通じた信頼関係の構築もあるのではないか。
- ・本報告書で、対話を重んじる趣旨の表現がしばしば見受けられるが、「対話」で重要なことは本音で話すことである。職員同士、地域住民、業者問わずフラットな立場で対話することが重要であり、その重要性を改めて認識してほしい。

【質疑応答】

◆ Q 1 冒頭他地整では不祥事があったと伺った。恐らく東北地整と同様の取組をしていると思うが、にもかかわらず不祥事が発生したことに対する分析はあるか。

A 1 不祥事が発生すると第3者委員による調査報告書が作成され、職員にも共有される。最近の不祥事の背景には経済的な事情が要因と思われるものが見受けられる。

◆ Q 2 eラーニングは勤務時間内に行っているのか。

A 1 勤務時間内である。時間は15～30分程度。

◆ Q 3 報告書（案）において、説明が不十分と思われる箇所があり、また設問間での説明に不整合さを感じる部分がある。公表する報告書は、委員の意見を反映し、修正してもらいたい。が如何か？

A 3 本日いただいた各委員からのご指摘を踏まえ、修正を加えより丁寧な報告書とさせていただきます。

6. 整備局からの発言

本日は色々な観点からのご意見を頂き、ありがとうございます、ただいま、委員の皆様から頂いたご意見をふまえ、組織全体の信頼のための日々の取組ですので、しっかりと取り組んで参りたい。